令和７年度
市民活動支援事業
成 果 報 告 書

霧島市

はじめに

「霧島市市民活動支援事業」は「共生・協働のまちづくり」の一環として、市民活動団体が行う公益的・公共的な活動に対して経費の一部を補助することにより、様々な市民活動を支援する制度です。これまでに延べ182団体が活用し、令和７年度は９団体が本制度を活用して様々な活動に取り組みました。

この「令和７年度市民活動支援事業成果報告書」は、事業の活動内容や成果等を広く周知し、今後の市民活動の参考にしていただくことにより「共生・協働のまちづくり」が本市全体に広がることを期待して取りまとめたものです。

〈 参 考 〉令和7年度 霧島市市民活動支援事業応募・採択内訳

【選考審査の結果】

区　分		応　募	採　択	※実　施
団　体　数		10団体	10団体	9団体
	ＮＰＯ法人	0団体	0団体	0団体
	その他の団体	10団体	10団体	9団体
事　業　数		10事業	10事業	9事業

【分野別内訳】

分野別	応　募	採　択	実　施
保健・医療・福祉	0	0	0
国際交流	1	1	1
学術・文化・芸術・スポーツ	2	2	2
環境保全	0	0	0
まちづくり	2	2	2
社会教育	0	0	0
子どもの健全育成	3	3	2
農山漁村振興	2	2	2
合　計	10	10	9

目　　次

（団 体 名）　　（ページ）

1　浜田到を語る会（暁の会）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～ 2

2　きりしまにほんごきょうしつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3～ 4

3　永山農業クラブ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5～ 6

4　きりコス実行委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7～ 8

5　NPO わかみこ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9～10

6　任意団体　風と土 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11～12

7　任意団体　OBAMA　LIFE ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13～14

8　Awesome　City　Project・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15～16

9　一般社団法人　かごしま空き家サポート協会・・・・・・・・・・・・・17～18

〈 参 考 〉 各団体の補助額等について

目次番号	事業名	事業費	補助額
1	浜田到顕彰啓発事業	412,143 円	200,000 円
2	霧島市の多文化共生の推進に関わる事業	188,439 円	94,000 円
3	農業クラブによる山間地活性化事業	182,358 円	90,000 円
4	きりコス事業	295,377 円	66,000 円
5	福山の活性化・歴史保存事業	272,843 円	134,000 円
6	安心と生きる力を育む地域の第三の居場所づくり事業	827,440 円	300,000 円
7	「小さなソーシャルアーティスト展」小浜の海での環境教育と人材育成事業	303,312 円	0 円
8	くらしと、霧島と、事業	278,476 円	139,000 円
9	霧島市空き家対策啓発事業	91,626 円	45,000 円
合　　計		2,852,014 円	1068,000 円

浜田到顕彰啓発事業

＜浜田到を語る会（暁の会）＞

事 業 費 ：412,143円　　市補助金： 200,000円

目　　的　（背景・課題）

1. 浜田到の短歌についての研究

浜田到の歌については、著名な短歌編集者中井英夫など多くの人から高い評価を受けているが、内容が難解である。

こうしたことから、当会の中に「浜田到研究専門部会」を設置し、浜田到の歌集や浜田到に影響を及ぼしたと言われるリルケ、浜田到とともに前衛歌人として活躍した塚本邦夫、寺山修司、岡井隆の歌などを調査し、結果をまとめていく。

2. 会員及び一般市民等を対象にした「浜田到を語る会」の実施

令和3年2月から5月まで、かごしま近代文学館で「孤高の歌人 浜田到」展が開催されたが、当会はこの企画展を契機として発足した。以来、当会では四半期ごとに会員及び一般市民等を対象にした「浜田到を語る会」を実施してきたが、これを継続し深めていく。

3. . 浜田到顕彰短歌大会の開催

短歌大会を開催し広く応募を募ることは短歌の啓発になるとともに浜田到の功績に関心を持つ契機となる。

全国に募ることで霧島市の文化振興や観光振興にも寄与し、地域の学校に募ることで文化啓発の場を提供できる。

4. 浜田到の歌碑建立の検討

当会の大きな目的の一つが浜田到の歌碑建立である。そのためには、場所、資金、工法、碑文の内容など検討すべき課題が多い。

文学碑は、歌人や作歌を顕彰するためのものであるが、地域の文化振興や観光振興にも寄与する。

課題解決のためには、こうしたことを行政や市民に訴え、協力を求めていきたい。

事　業　内　容

■5月3日 第12回例会国分公民館
講演　永田龍二氏「京セラと霧島の街に育てられ」
■6月 第1回浜田到顕彰きりしま短歌大会　募集開始
県下短歌結社・団体、霧島市内学校など各所に募集チラシ配布、応募募集サイト、中央短歌誌に掲載、南日本新聞が記事掲載
■8月2日 第13回例会 国分公民館
令和7年度総会　令和6年度収支報告、令和7年度活動方針
講演　黒瀬　圭子氏「リルケと高安國世の短歌」
■9月20日 短歌大会募集締切
応募数：一般部　211首、学生の部　1,357首
■9月30日 学生の部の第一次選考
学生の部1,357首から322首を選出
■11月1日 第14回例会 国分公民館
講演　井口　松子氏「浜田到をたずねて」
■11月　南日本短歌大会等でチラシ配布、告知を開始
■11月10日 短歌大会　最終選考
リモートで東京、京都在住の選者と入賞作品を決定
■令和8年2月10日 第2回浜田到顕彰きりしま短歌大会
国分ハウジングシビックホールにて開催、参加者100名
■1月29日 短歌大会の反省会

昨年度に引続き第2回浜田到顕彰きりしま短歌大会を開催した。今回は、昨年度に加え、国分文化協会賞など後援各団体賞を設けた。中央より選者を招き、霧島市長、霧島市教育委員会教育長に臨席いただき盛会だった。また、全国から多数の応募があり、応募作品は第1回大会を上回った。例会は、3回行いそれぞれで講演と浜田到の作品鑑賞をおこなった。

事　業　の　成　果

昨年度に引き続き第2回となる短歌大会を開催することで、県内外の短歌関係者に、この短歌大会が継続して開催されていくことを印象付けることができた。応募作品も増え、前回同様に県外からの応募も多く見られた。南日本新聞記事などの反響も大きく、本来の目的である浜田到の顕彰と霧島市の文化、観光に寄与することが出来たと思っている。また、試行的に学生の部入賞者と選者の語らいの場を作り好評だった。今後は、このような取り組みを増やし、子供の短歌の入口となるような活動を展開していきたい。

本来の活動である例会、ネットでの鑑賞会も地道に行うことで、当会の活動も各所に認められ、他団体から浜田到についての講演依頼もあった。今後も例会などの地道な研鑽活動、短歌大会での広範囲な展開、また子供たちの育成を柱として、長く続けていく所存である。

自　己　評　価

1　事業効果
期待していた以上の効果が上がった。
2　改善すべき課題
・学生の部で子供たちが短歌に触れる場は作れたが、定着がみられなかったので、子供たちの育成の場を作っていく。
・短歌大会を継続する上での資金に不安があるが、各種支援への応募、広報など自己資金調達を模索していきたい。
3　予算執行
多少の変更があった。
・例会講師を会員で行ったので報償費は使わなかったが、浜田到に関する書籍が新たに刊行され、それを副賞に採用したので、受賞式経費が大きくなった。会場変更による使用料の増大もあった。
4　今後の展望
・短歌大会を継続し定着させていく。また、短歌大会を契機とした子供たちの育成、観光関連団体とのコラボレーションなど取り組んでいきたい。
5　その他、自己評価すべき点
・今回の短歌大会開催は、この大会が継続して開催されることを大きくアピールできたと思われる。そこから派生する各方面へのつながりが、今後の活動に生きると感じている。

活 動 の 様 子






霧島市で短歌大会 一般の部・川崎さん大賞
郷土ゆかりの歌人・浜田到顕彰



第2回浜田到顕彰きりしま短歌大会(R8.1.10)



第12例会(R7.5.3)



第14回例会(R7.11.1)

団 体 情 報

＜団体名＞浜田到を語る会(暁の会)
＜代表者＞井口　松子
＜設立日＞令和３年7月５日
＜会員数＞34人
＜主な活動＞
講師を招いた研究会の開催
浜田到の原稿、書籍、作品などの展示会
＜連絡先＞
所在地　〒899-4331　霧島市国分城山町7-10
TEL 080-3370-6037



短歌大会作品集の発行(R8.2)

霧島市の多文化共生の推進に関わる事業

＜きりしまにほんごきょうしつ＞

事 業 費 ：188,439円　　市補助金： 94,000円

目　　的　（背景・課題）

在住外国人に関連する、日本語教育、国際交流、異文化理解等の活動を行うことにより、在住外国人を含む地域住民の相互理解に貢献することを目的とする。

少子高齢化の進展に伴い、霧島市内でも在住外国人の数は今後も増加する傾向にある。そのような状況の中、在住外国人の生活のベースである日本語・日本文化の理解や、地域住民との相互理解は益々求められている。これらの課題解決の一助となる事業を行っていきたい。

事　業　内　容

1. カンバセーションナイトの開催

原則毎月1回　午後6時～8時　国分公民館で開催（2025年4月19日（土）、5月17日（土）、6月21日（土）8月24日（日）、9月20日（土）、10月18日（土）、11月15日（土）、12月7日（日）、2026年1月17日（土）、2月21日（土）計11回）

霧島市の外国籍住民と地域住民との日本語での交流会を実施した。参加者は未就学児から80代まで幅広く、在留資格も留学生・技能実習生・特定技能・就労・配偶者・家族滞在と多岐に渡った。地域でのつながりを形成する重要な場としてこの場が活用されている。

2.日本語サポーター養成講座

霧島市国際交流協会との連携で講座を実施でき、1のカンバセーションナイト等で実施することで相乗効果が生まれた。

3.相互文化理解のイベント

和香炉や和紅茶などの日本文化理解、ネパールのチャイ体験などを1のカンバセーションナイトの機会を利用して実施した。

スポーツ大会やボウリング大会を実施して、交流を図った。

また、霧島市立中福良小学校で実施された「ミニ地球村」にICA国際会話学院霧島校の留学生と参加し、ネパールの料理や文化紹介、デーヴァナーガリー文字のワークショップを行い、地域との交流を行った。

1・2・3全てにおいて、外国籍住民の日本語の言語力や在日期間に関係なく、活動ができるような支援を続けてきた。

事　業　の　成　果

地域に暮らす外国籍住民がそれぞれどんな背景で霧島市に来たのか、どんな困難を抱えていたり、霧島市の魅力をどう感じているかなどを交流を通して知ることができた。それにより、ごみの分別の難しさや、保護者として過ごすために学校の制度や文書がわからず困ったことなど自然にヒアリングできた。そこから行政や地域への問題提起につながることもあった。

先見的な事例として、様々な場所で事例発表に呼ばれることもあり、この活動の可能性を感じている。しかし、カンバセーションナイトが居場所となるために、公民館の賃借料・保険料を参加費で補う必要があるたが、参加人数が不安定なため、赤字になることも度々起こる。周知に務める必要があるが、この活動の公共性や地域で行われていない支援の代替性からも、様々な形での支援や補助が必要であると感じている。

自　己　評　価

1　事業効果

期待していた以上の効果が上がった。

2　改善すべき課題

なかった。

3　予算執行

多少の変更があった。

予算の時点で想定した会員加入数や寄付額よりも決算時に少なかったこと、イベント回数と想定した参加人数よりも少なかったこと、無料開催のイベントの実施もあり、想定の収入から大幅な減少となった。

4　今後の展望

カンバセーションナイトは地域でも定着した活動として認識されるようになった。定期的に実施することで、外国籍住民と地域住民、多文化共生や日本語教育に関心がある方々の集いの場として活用されるようになった。日本語サポーター養成講座との連携で活用の幅も広がった。このまま地域で継続的に実施できる活動として続けていきたい。

5　その他

申請した活動内容に沿って最大限努力ができた。市民活動の可能性を周知できたと思う。

活動の様子



カンバセーションナイト



ボウリング大会



シビックセンターホールにて活動報告









団　体　情　報

＜団体名＞きりしまにほんごきょうしつ
＜代表者＞本田　佐也佳
＜設立日＞令和4年5月28日
＜会員数＞10人
＜主な活動＞
　霧島市内において、在住外国人に関連する、日本語教育、国際交流、異文化理解等の活動を行うことにより、在住外国人を含む地域住民の相互理解に貢献する。
＜連絡先＞
　所在地　〒899-4331　霧島市国分城山町4-15
　TEL 090-3601-9088

農業クラブによる山間地活性化事業

＜永山農業クラブ＞

事 業 費 ：182,358円　　市補助金： 90,000円

目　　的　（背景・課題）

永山集落は、山間地が空家と耕作放棄地が年々増えてきている。また、都市部では農業、田舎、自然に関心をもっている人が少なからず存在する。永山農業クラブは、永山集落の空き家、耕作放棄地を有効活用し、都市部の農業などに興味を持つ人達に拠点、活動の場を提供することで、永山集落に賑わいをとりもどしていく。

事　業　内　容

【農業クラブ】

・毎週水曜日にクラブ員が集まり耕作放棄地を借り上げた共同農地で野菜作りを行った。

作付けした野菜：エンドウ豆、レタス、キュウリ、シシトウ、ナス、タマネギ、カボチャ、白菜、キャベツ、大根

・収穫した野菜の販売

収穫した野菜を近隣の直売所にて販売した。

菊芋、そら豆、カボチャ

・会員の所有する農地にて小麦、蕎麦を育てた。播種、育成、収穫、脱穀、製粉まで一貫して行い、出来上がったソバ粉、小麦粉を自家製粉し、ピザやソバ打ちの田舎体験会を実施

・カマドの作成

共同農地の一角にカマドを作成した。カマドは羽釜ご飯、コンニャク作りなどに活用して田舎体験会の活動の幅が広がった。

・耕作放棄地で花を育てる。

耕作放棄地を借り上げ、コスモス、ヒマワリ、ストロベリーキャンドルなどの花を植えて地域の美化に貢献した。

・地域活動

上之段永山地区自治会の道路周辺の草刈り作業に参加し、地域住民との交流、地域の美化に貢献した。

【日帰り田舎生活】

クラブ員外を対象に田舎体験会を月に1回開催し、多くの方の参加があった。子どもの参加も多く賑わいが出てきた。また、田舎ならではの催しを体験することで山間地域への親しみを醸成した。

4 月 ： 山菜とり、タケノコの瓶詰（参加7名）
5 月 ： あく巻作り、お茶作り（参加11名）
6 月 ： 田植（雨天中止）
7 月 ： 手作りマスタード（参加7名）
8 月 ： ピザ、パン作り（参加12名）
9 月 ： とうふ作り（参加15名）
10月：稲刈り（参加28名）
11月：みそ作り（参加18名）
12月：杵で餅つき、門松作り（参加18名）
1月 ： ソバ打ち、七草かゆ（参加9名）
2月 ： 田舎コンニャク作り（参加10名）

事　業　の　成　果

農業クラブの活動では、クラブ員が週に1回集まって共同農園で野菜を作った。また、収穫した野菜を地域の物産館に出荷することもできた。小麦、蕎麦は栽培から自家製粉も行い、ピザ窯でのピザ焼きやソバ打ちをおこなった。栽培、製粉、加工まで自前ですることで、参加者に食への関心をもってもらえた。

耕作放棄地の借り受けを増やして花を植えた。昨年度よりも花の種類、栽培面積を増やし地域の美化と活性化を図り、地域の方々はもとより、車で通る方々にも喜んでもらえた。

田舎体験会は雨天中止の1回をのぞき、毎月開催することが出来た。参加者も過去の参加者の口コミにより徐々に増えてきている。今年から田植、稲刈りの体験会も開催し、手刈り、掛け干しの昔ながらの作業を体験してもらった。

参加者の中から木工の作業場で使いたいとの声があがり、一緒に活動することで、さらなる人員流入、活性化が見込まれる。

活動も2年目となり農業クラブの共同農園、田舎体験会、休耕地での花の栽培で訪れる人も増え、周囲からも何かイベントをしていると興味をもってもらえるようになった。

自　己　評　価

1　事業効果

期待した効果が上がった。

2　改善すべき課題

農業クラブ会員は新会員が増えたが、辞める会員もおり、結果として増員ができなかった。

現クラブ員周辺への勧誘、田舎体験参加者への勧誘を行っていく。

3　予算執行

多少の変更があった。

カマドを作るための材料費がかさみ、チラシ作成、協力者への賃金支払い、一輪車・テントの備品購入ができなかった。

4　今後の展望

農業クラブのクラブ員を増やし、さらなる活性化を行っていきたい。休耕田を活用し稲作はもとより、水生作物も手掛けていきたい。休耕地への植生をさらに進めて、耕作放棄地の有効利用と山間地域の賑いづくりをしていく。

5　その他

2年目で地域内外から注目されるようになってきた。休耕田での稲作を手がけたが、米への関心が高まっていたので好評だった。

活　動　の　様　子


カマド作成


田舎体験会　カマドで炊飯


農業クラブ活動　植付


農業クラブ活動　麦踏


田舎体験　稲刈り


田舎体験会　みそ作り


田舎体験会　餅つき

団　体　情　報

＜団体名＞　永山農業クラブ
＜代表者＞　福永　徹
＜設立日＞　令和５年８月１日
＜会員数＞　６人
＜主な活動＞
・秋の収穫祭の開催
・日帰り田舎生活（田舎体験会）
・農業クラブ共有畑にて共同作業、毎週水曜日に共有畑で野菜作り
＜連絡先＞
所在地　〒899-4343　霧島市国分野口西18-28-8
TEL 090-9574-0271



農業体験チラシ作成

きりコス事業（きりしまコスプレイベントと撮影会）

＜きりコス実行委員会＞

事 業 費 ：295,377円　　市補助金： 66,000円

目　　的　（背景・課題）

アニメ作品など聖地巡礼による観光客の増加や、自治体主導のコスプレイベントなどによる町興しの取り組みも盛んになってきた。かつて、サブカルチャーと呼ばれた文化が、ポップカルチャーとして認知され、経済活動としても評価されつつある。

鹿児島県内でも各地で定期的にコスプレイベントや撮影会が開催され、県内外から多くのコスプレイヤーが集まり、交流を深めている。

霧島市内でもキリハロなどが開催され、コスプレ文化は身近なものとなっているが、コスプレイベントなどの開催はなく、霧島市内のコスプレイヤーは市外や県外のイベントに参加せざるを得ない状況。霧島市は、県内有数の観光地でもあり、多種多様な撮影ロケ地に恵まれている。

霧島市の観光資源を活かしたコスプレイベントや撮影会を開催し、観光客の誘致と、新しい霧島市の魅力発信を行う。

事　業　内　容

霧島市のロケーションを活かすコスプレイベントをコンセプトに掲げ、チェコ村を謡いヨーロッパ風の建物が立ち並ぶ溝辺町の「バレル・バレー」、大正11年建設で県文化財指定の福山町の「旧田中家別邸」で時代劇風のロケーションイベントとして開催した。

事　業　の　成　果

コスプレイベント参加者の多くは、SNSで情報収集・交流を図っており「きりコス」の情報を積極的にSNSで発信し、県内はもとより、全国各地から参加者が集うイベントとなった。特に、旧田中家別邸は、飲食禁止の厳しいレギュレーションがあったが、飲食禁止を逆手に取り近隣の飲食店を利用してもらう声掛けを実施した。きりコスに参加したコスプレイヤーは、積極的に霧島での様子や撮影した写真をSNSに発信、霧島の魅力を発信することができた。

自　己　評　価

1　事業効果

期待していた以上の効果が上がった。

2　改善すべき課題

あった。

二か所で開催しましたが、会場ごとのレギュレーションが異なるため、設営などに関する備品の準備が異なり、想定外の出費などがあった。

3　予算執行

大きな変更を余儀なくされた。

当初年4回のイベント開催を企画したが、猛暑である夏季の開催は断念、実施回数を減らし、それに伴い予算も変更した。

4　今後の展望

コスプレイベントは、撮影できるロケーションだけでなく、男女の更衣室の確保が重要です。また、会場によって設備やレギュレーションが異なるため、様々な環境でイベントが開催できるように取り組みたい。

5　その他

全くのゼロから手探りで始めた霧島でのコスプレイベント「きりコス」だが、霧島の魅力的なロケーション、参加者が安心して参加できる環境が整えば、全国から霧島に参加者が集うということが確信できた。



チラシやポスターを作成





洋館を背景にコスプレ満喫

霧島で「きりコス」初開催

アニメや漫画のキャラクターになりきる「コスプレ」のイベント「きりコス」が4日、霧島市溝辺のバレルバレープラハ&GENで初めて開かれた。県内外から55人が参加。チェコを思わせる洋風のロケーションで、撮影会を楽しんだ。

イベントの実行委員長を務めた、市内で写真館を営む下清孝さん(56)は「霧島に素晴らしいロケーションがくさんある。イベントを通して霧島の良さも知ってもらいたい」と話す。

スタッフ兼コスプレイヤーとして参加した同市溝辺町川の羽田ゆりさん(20)は「いろいろな人が来てくれるこで、地元に活気が出てうれしい」と喜んだ。「きりコス」は12月、同市福山の旧田中別邸で2回目を開く予定。

（新澤杏菜）

コスプレ撮影会を楽しむ参加者＝霧島市溝辺町麓のバレルバレープラハ&GEN

南日本新聞令和７年10月13日掲載

団　体　情　報

＜団体名＞きりコス実行委員会
＜代表者＞峯下　清孝
＜設立日＞令和6年12月15日
＜会員数＞7人
＜主な活動＞
　1 霧島コスプレイベント
　2 霧島市及び県内のコスプレイヤーの意見交換会
＜連絡先＞
所在地　〒899-4346
霧島市国分府中町1－53－1
TEL 0995-70-0739

福山の活性化・歴史保存事業

＜NPOわかみこ＞

事 業 費 ：272,843円　　市補助金： 134,000円

目　　的　（背景・課題）

過疎化・高齢化に悩む福山地域の活性化を目指すと共に、埋もれつつある福山の歴史資料（写真・映像）や民話・伝説伝承などを発掘し公開保存する事業を行う。

事　業　内　容

①ふれあいサロン事業
開催日時：7回実施（7，9，10，11、12，1，2月）
開催場所：福山地区内
対象者：地域住民
内容：サロンではお茶や軽食・お菓子等の無料サービス他、体操講座等の各種レクレーション開催

②古い資料（写真やビデオ）や伝統・伝説を収集しインターネット公開や上記サロンにて展示する

③災害時の炊き出し等の支援活動

事　業　の　成　果

＜ふれあいサロン活動＞
高齢者の方の外出の機会が増え、次回のサロン活動を楽しみにしているという声が多かった。

＜歴史保存事業＞
資料が少なかったが、提供されたものはインスタグラムやサロンでの掲示を行った。県外の方の反応もあった。

＜夏の大雨による災害支援＞
動けない人への水の配達、家の泥かき出しの手伝いをし、とても喜ばれ人助けとなった。

自　己　評　価

1　事業効果
期待していた以上の効果が上がった。
2　改善すべき課題
特になし
3　予算執行
ほぼ予定どおり執行できた。
4　今後の展望
①サロン事業の中にイベント活動を入れていきたい。
②地域の歴史を未来に残すための活動を強化したい。
5　その他
初年度にしては、地域の方々に喜んでいただけた。



活動の様子

子ども食堂　シニア食堂　健康相談　（所在地：上大廻　旧 松下宅）





◀左：オープンスタッフ一同







▲上：当日のランチ



















団　体　情　報

＜団体名＞　ＮＰＯわかみこ
＜代表者＞　松下　純子
＜設立日＞　令和６年12月１日
＜会員数＞　19人
＜主な活動＞
・過疎化・高齢化が大きな問題となっている
　福山地域の活性化と高齢者支援
＜連絡先＞
　所在地　〒899-4313　霧島市国分上井232
　TEL 090-2968-2900



チラシ作成をし地域へ周知

安心と生きる力を育む第三の居場所づくり事業

＜任意団体　風と土＞

事 業 費 ：827,440円　　市補助金： 300,000円

目　　的　（背景・課題）

令和5年度文部科学省の調査によると不登校の小中学校生は35万人、いじめ報告件数は75万件、自殺者は507人。生きづらさを抱える子どもたちが日本で急増しており、家庭や学校以外での安心できる第三者の居場所を子どもたちとその保護者の多くが必要としている。令和5年に施行された「こども基本法」が示すように、すべての子どもたちが安心して過ごせる環境の確保と、学校以外での学びの機会が保障されることが喫緊の課題であると考え、その課題解決を図るための一手段として本業を行う。

事　業　内　容

1　空き家再生ワークショップ

地域の多世代間交流を通し地域コミュニティの醸成を図り、子どもたちは作業を通し自己効力感を育むことを目的に実施。令和7年5月～令和8年2月まで毎月約2日間行った。当該空き家は、令和6年度霧島市主催で遊休物件の利活用を促す「リノベーションスクール@隼人」への参画をきっかけに、地域の第三の居場所を作るべく、当団体が賃貸契約を結んだ物件である。築100年を超える古民家で、改修・修繕が多数必要であり、子ども・地域住民とともに協働し作業を行う過程を重視し、地域に開かれた共生の場となることを目指す。

2　生涯学習の場づくり

防災のための地域コミュニティでの取り組みと、子どもたちに多種多様な体験活動の機会を保障することを目的に実施。安心できる環境の中で学び、遊びを通して子どもたちの健やかな成長を多くの支援者と共に支える。

①「雨庭から学ぶみんなで作る地域防災」

環境×防災イベントとして、グリーンインフラとして注目される「雨庭」を、全国で環境活動を推進する法貴弥貴氏を招き、お話し会及びワークショップを実施予定も、令和7年8月豪雨災害にて延期の運びとなる。

②家庭保存食「みそづくり」調理講習

親子でできる家庭保存食づくりとして、霧島市で無農薬・化学肥料を使わずに自然栽培で育てられた大豆・麦麹を使用した「みそづくり」を開催予定であったが、講師都合（感染症）のため延期の運びとなる。

事　業　の　成　果

子どもをまんなかにした地域の第三の居場所、交流拠点として古民家再生ワークショップを中心に、多種多様な体験活動、イベント企画を行い、未就学児から高齢者まで、延べ400名を超える幅広い世代に参加していただき、地域のコミュニティ醸成に寄与することができた。活動時には不登校児童やその保護者のみならず、市内外からの児童親子の参加もあり、学校や家庭以外で安心して他者とつながることができる「居場所」や「学び・遊び場」としての機能を果たすことができた。また、活動を継続することで地域への認知が広がり、宮内地区で長年活動をされている「まちづくり委員会」や「鹿児島神宮通り会」、その他近隣の飲食店や児童施設などの地縁組織との連携関係も築くことができ、地域に根差した持続的な活動を行う上で、今後のさらなる発展性を感じることができた。

自　己　評　価

1　事業効果

期待していた以上の効果が上がった。

2　改善すべき課題

広報が主にSNS中心で、地域に暮らす子どもたちや保護者・高齢者へ届いていない。今後は、掲示版の設置、地域の回覧板や地縁組織へのアナログな広報も積極的に行いたい。

3　予算執行

大きな変更を余儀なくされた。

予定していた講師とのスケジュール調整が困難となり報償費、旅費で余剰金が生じた。また、消耗品費や原材料費の見積もりが甘く、大幅な予算超過となった。

4　今後の展望

微力ながら、全ての子どもたちが幸福な子ども時代を過ごすための一助となれるような活動を継続して行っていきたい。

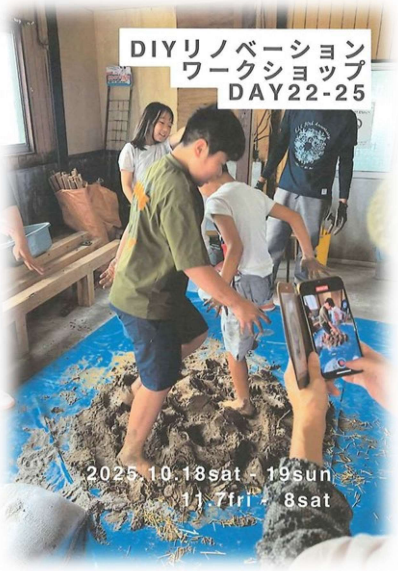
5　その他

今年度も、活動を継続し多種多様な体験活動やイベントを行うことができたのはひとえに、いつも支えてくださる皆様のご支援とご協力にほかなりません。この場を借りて心より感謝申し上げます。



活動の様子







団　体　情　報

＜団体名＞　任意団体　風と土
＜代表者＞　瀬口　康平
＜設立日＞　令和６年２月４日
＜会員数＞　８人
＜主な活動＞
・不登校の親の会主催
・防災のための地域コミュニティでの取り組みの拡充
・生きる力を培う生涯学習の場の提供

＜連絡先＞
所在地　〒899-5121　霧島市隼人町神宮1-13-23
TEL 090-7451-6587

「小さなソーシャルアーティスト展」小浜の海での環境教育と人材育成

＜任意団体　OBAMA LIFE＞

事 業 費 ：303,312円　　市補助金： 0円

目　　的　（背景・課題）

私たちは、ひとりひとりの個性が活かされた居場所と出番のあるコミュニティ活動及び、孤立や孤独を防ぐために地域全体で子育てをシェアするための活動を通じて、幸福度の高い暮しを育み、分かち合うことを目的に活動している。

また、日本でも有数の生物多様性が今なお存在する隼人町小浜エリアだからこそできる野外活動を通じて、“人と自然の調和”の実現を目指す。

事　業　内　容

▼4月
・植物を増やそうワークショップ（山育事業）＆海岸のゴミ拾い（海育事業）

▼5月
・薬草ワークショップ（山育事業）
・どんぐりの植え替え（山育事業）

▼6月
・小浜海岸のゴミ拾い＆漂流ゴミで作品づくりワークショップ（海育事業）
・雨の日のPLAY　PARK　DAY～ﾘｻｲｸﾙ工作をしよう

▼7月
・入来浜のゴミ拾い＆漂流ゴミで作品づくりワークショップ②
・お水で遊ぼう！BASHA×BASHA（水遊びワークショップ）

▼8月
・くすのき自然館スタッフを招いた干潟の生き物観察ツアー（海育事業）
・「小さなソーシャルアーティスト展」展示会開催

▼10月
・秋の山さんぽ～木の実や落ち葉で工作しよう～（山育事業）

▼11月
・植樹祭・植物のネームタグづくり（山育事業）
・小浜秋祭り！海の漂流物を使ったワークショップ

事　業　の　成　果

【実施】
・「資源の大切さを学ぶエコ活動」に通じるワークショップ（ゴミ拾い＆作品づくり・いきもの観察ツアー）開催数：3回

【人数】
・「資源の大切さを学ぶエコ活動」に通じるワークショップ（ゴミ拾い＆作品づくり・いきもの観察ツアー）3回参加者数：75名（内、子ども43名）

・8月16日から25日の「小さなソーシャルアーティスト展」展示会　来場者数：120名（内、子ども50名）

・展示会の会期中に行った、「あなたも小さなソーシャルアーティスト」体験ワークショップ参加者数：子ども25名

＜定期的な効果＞
・「干潟のいきものツアー」では、海洋ゴミが海の生態系に及ぼす影響について学び、最後に「どんな未来をつくりたいか」という問いかけから、対話を行った。
　子どもたちが環境保全の意識、綺麗な海を守りたい思いを持ち、「日常的にゴミを拾うようになった」という声もあった。

・「小さなソーシャルアーティスト展」では、海でゴミ拾いをし、そのゴミを素材にしたアート作品をつくるプロセスを通じて、「ゴミが作品の素材になる」、つまり「ゴミがゴミじゃなくなる」ことを通じて、「ゴミを拾うのが楽しい」という変容を体験として起こした。大人にとってもこのことが大きな認知転換だった。
　また、今回の活動全体を通じて、新たな出会いが多数生まれ、繋がりが増えたり、その質が増したりした。

自　己　評　価

1　事業効果
　期待した以上の効果が上がった。

2　改善すべき課題
・スケジュールの見直し
・運営スタッフ増員
・参加料の見直し
・協賛企業への営業

3　予算執行
　多少の変更があった。
　・ETC費の変更
　・経費削減のためイベント保険に入らなかった
　・PRチラシを持ち込みにし、郵送料削減をした
　・「竹で流しそうめん」のイベントを行わなかった

4　今後の展望
　・obama　villageを起点に、霧島市に暮らす人々の個性が発揮され、居場所と出番がある地域を育む。暮らす人々が幸せを感じる関係性や交流を育む
　・子どもたちが豊かに安心して自分を表現して生きていくことができる社会をこの地域から実現する。
　・自然環境との関わりを持つことを通じて、海や山の素晴らしさ、大切さを体感し、自然保全のための行動を選択できる地球市民を増やす。
（具体的には）
　・月に一度、「Playpark day」という自由遊びの場を地域開放する。
　・海や山での探究活動や、表現ワークショップのイベントを企画し、運営する。

5　その他
　・立ち上げて1年の任意団体OBAMA LIFE　として、その理念やビジョンを体現するような活動だった。小さな団体ではありますが、これからも地域に根を張り、活動を続けていけるよう務める所存です。

団　体　情　報

＜団体名＞　任意団体　OBAMA LIFE
＜代表者＞　平野　知実、玉井　妙
＜設立日＞　令和５年10月１日
＜会員数＞　５人

＜主な活動＞
・「干潟の生き物観察ツアー」「小さなソーシャルアーティスト展」
隼人町小浜エリアだからこそできる野外活動を通じて、居場所作りや人と自然の調和を図る

＜連絡先＞
所在地　〒899-5103　霧島市隼人町小浜28
TEL 080-6403-1104

くらしと、霧島と、事業

＜Awesome　City　Project＞

事 業 費 ：278,476円　　市補助金： 139,000円

目　　的　（背景・課題）

中央児童公園が位置する国分中央地区は、マンションが増えるなど人口が増加しているエリアである。また保育・教育施設が集積しており、子育て世代にとっても働きやすく、周辺部に山や海など子どもを遊ばせるスポットも多いことから比較的子育てしやすい環境にある。一方、商店街の衰退や地域コミュニティの希薄化、コロナ禍による行動制限などにより、地区内におけるご近所付き合いが疎遠になり、高齢者、子育て世代、若者など年代による分断が起きている。そのため、まちなかでの暮しや働き方の質を向上させ、地域住民の街への愛着や新たな魅力を創出することでインナーブランディングを高めることにより、効果的にエリアのプロモーションや情報発信につなげていく。

事　業　内　容

■月1回の定期トークイベント（だべらナイト！）実施
日　時　令和7年8月3日（日）14:00～16:00くらしと、霧島と、
令和7年9月～令和8年2月（最終水曜）18:30～21:00
場　所　3rd・TOORINIWA・ポケットパーク
内　容　各回にテーマを設定し、霧島で活動するキープレイヤーを集めたトークイベントを開催した。また輪番制により食事を提供したり、持ち寄りによる飲食物のシェアなど参加者同士が繋がれる設えとし、商店街の店主や地域住民が顔見知りになるきっかけを創出。

ゲスト ①8/3（日）小友康弘
②9/24（水）橋口夏樹
③10/29（水）佐藤幸大
④11/26（水）後藤宏太
⑤12/23（火）川原智美
⑥1/28（水）祁答院侑穂
⑦2/25（水）いわいあや　※延期

事　業　の　成　果

前年度とは形を変えて、地元の通り会の方々との協力を得ながら、持続可能な実施体制づくりを行い、下半期は毎月欠かさずイベントを開催できたことは次年度にもつながる良い機会となった。

地元の通り会が管理するポケットパークで開催することでより密度の濃い会話や交流が生まれたことは非常によかった。また毎月のゲストも今回のゲストが次回ゲストを紹介する方法を取り、隔たらず、毎回違う分野のゲストと交流することができ、今後も継続しやすい手法だと感じた。

コロナ禍以降、生活様式が激変し、食事付きのイベントなど参加する人数が減っているのを如実に感じている。一方、地元の商店の方々は、昼の営業のみならず、安心安全を提供する街路灯や、夏は竹提灯、冬はイルミネーションなど賑わいのための取り組みを陰ながら継続している。そのような方々と店舗（来店）ではない形で、交流することができる機会は有益であり、ポケットパークに設置してある「かまどベンチ」の活用も防災上、意義があることだと感じる。今後も引き続き、無理のない体制でイベントを継続していきたい。
参加者数：計96名

自　己　評　価

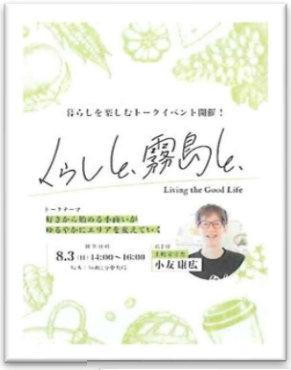
1　事業効果
期待した効果が上がった。
2　改善すべき課題
なかった。
3　予算執行
多少の変更があった。
地元の通り会との調整に時間がかかり、上半期の開催ができなかった。一方、継続開催のための基本設計は構築できたので、地域の方々と地道な活動を続けていきたい。
4　今後の展望
通り会との連携は取れ始めているので、今後は周辺店舗の巻き込みを意識したい。
5　その他
2カ年の補助金採択のおかげもあり、開催に係る備品の調達や地元通り会との連携を図ることができたので、今後も継続開催を目指していきたい。

活動の様子

開催案内











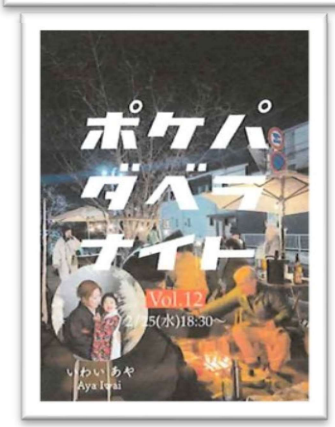


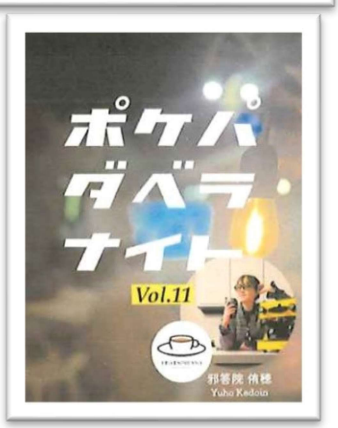












団　体　情　報

＜団体名＞　Awesome　City　Project
＜代表者＞　宮之原　優聖
＜設立日＞　平成２８年１１月１日
＜会員数＞　７人
＜主な活動＞
・地域活性化に関する活動又は事業を行うことにより、
霧島市に賑わいをもたらす活動を行う。
＜連絡先＞
所在地　〒899-5106　霧島市隼人町内山田1-23-3
TEL 090-7151-1562

霧島市空き家対策啓発事業

＜一般社団法人　かごしま空き家サポート協会＞

事 業 費 ：91,626円　　市補助金： 45,000円

目　　的　（背景・課題）

日本全国で進行している人口減少問題は、霧島市においても例外ではなく、2000年の127,912人をピークに人口減少傾向が続いており、今後更に深刻化すると予想されている。これに伴い、地域内の空き家が増加し、相続等に伴い放置される等様々な問題が懸念されている。

空き家問題の解決は、所有者や地域住民にとって重要なテーマである。本啓発活動（相談会）では、以下の目的を達成することを目指す。
①空き家問題の認知
②空き家の適切な管理・活用方法の普及
③空き家所有者の不安解消補法の提案

事　業　内　容

1　空き家相談会の実施
日時：①令和7年5月18日　10時～
②令和7年8月31日　10時～
③令和8年1月25日　10時～

場　所：みそめ館
対象者：空き家所有者・空き家に関わる課題を持っている人
内　容：空き家の発生に伴う課題・解決方法の提案、空き家相談

事　業　の　成　果

相談会を3回実施し、参加者に対して空き家の現状や課題、適切な管理・活用方法について分かりやすく解説するとともに、実際の相談事例を交えた実践的な内容とした。その結果、次の効果が確認された。
・空き家問題に対する認知度及び関心の向上
・早期相談の重要性に対する理解の促進
・地域課題を自分事として捉える意識の醸成
・実際の相談件数の増加や、事前相談への意識向上

特に、受講者からは「将来の相続や管理について考えるきっかけになった」「身近な問題として捉えられるようになった」といった声が多く寄せられ、本事業が地域住民の意識変革に寄与したことが確認できた。
＜参加者数＞
R7年5月18日　3人
R7年8月31日　1人
R8年1月25日　3人

自　己　評　価

1　事業効果
あまり効果が上がらなかった。
集客に課題があった。

2　改善すべき課題
空き家所有者へのアプローチ方法を改善する。
福祉との連携・病院・葬儀場など空き家が発生する見込みのある業界との連携で効果的に周知する。

3　予算執行
大きな変更を余儀なくされた。
予定講師の体調不良による変更、
協力企業の人的物的支援があった。

4　今後の展望
社会福祉協議会や包括支援との連携で
より効果的に空き家問題の周知を行う。

5　その他
溝辺地区に絞ってまずは3回開催したが、問題意識を持っている人はまだまだ少ないと感じた。
しかし、一部の方に対して情報提供できた事と相談できる組織があるという事を周知できた事は評価できると考える。



チラシを作成し周知しました

団 体 情 報

＜団体名＞一般社団法人　かごしま空き家サポート協会
＜代表者＞中野　徳二孝
＜設立日＞令和6年3月25日
＜会員数＞5人
＜主な活動＞
・空き家処分相談・サポート
・遺品整理相談・サポート
・空き家活用相談
＜連絡先＞
所在地　〒899-4462　霧島市国分敷根1181番1
TEL 090-9600-3827

令和７年度

市民活動支援事業成果報告書

令和８年 10 月

〒899-4394　霧島市国分中央三丁目 45 番 1 号
霧島市役所　市民環境部　市民活動推進課
ＴＥＬ　0995-64-0988（直通）
ＦＡＸ　0995-46-0566
E-mail　simi-katudo@city-kirishima.jp